

小学校高学年～中高生向け「スポーツダーツ」の導入

取組の背景・目的

令和7年度より公営から民営となり、民営化に伴って中高生の利用時間が午後8時まで延長されることになった。中高生の利用率を上げるため、運営委託を受けた事業者の他施設でも導入されているスポーツダーツを導入することになった。

導入当初は中高生のみ、午後6～8時の間のみ稼働していたが、小学生からの希望を受け、現在は小学5・6年生に向けても開放している。

取組の概要

【実施場所】東山児童館1階 玄関ホール

【実施頻度】毎日、希望者がいるときに電源を入れて稼働している。

最大4名まで同時に遊べるため、時間を決めて交代制で遊んでいる。

【職員体制】自由遊びの一環として、玄関ホール担当の職員が関わりを行っている。

初めてダーツで遊ぶ児童・生徒がいる場合は、職員が投げ方や禁止行為について説明を行う。

また、令和7年12月に「スポーツダーツプロジェクト」から講師を呼んで、「ダーツ講習会」を行った。参加した児童からも好評だったため、今後も定期的に行う予定。

○ダーツ講習会

【実施場所】東山児童館1階 玄関ホール

【実施頻度】不定期、土曜日開催（活動実績は令和7年12月、令和8年3月（予定））

【職員体制】3名

併設されている学童保育クラブからの応援や、玄関ホールに配置になっている職員で対応する。

【事業の実施方法】

- ・「スポーツダーツプロジェクト」を企画している「(株)ダーツライブ」に講習会を依頼している。

工夫点・留意点

- 投げる位置や高さが固定のため、対象年齢は小学校5年生からにしている。
- ダーツマシンと投げる人の間に距離があるため、間を人が通らないように三角コーンとバーを置いている。
- 遊べる人数に限りがある（同時に最大4名まで）ので、ホワイトボードに時間と名前を書いて交代で遊べるようにしている。



取組の効果

- 小学校高学年児童の遊びたい内容がプレイルーム（体育室）に集中していたことのが緩和され、プレイルームの混雑解消につながった。
- 通りがかりの高校生が館外からダーツが置いてあるのを見つけて興味を持ち、初めて来館してくれた。
- 兄弟からダーツが置いてあることを聞き、初めて来館する小学生・中学生がいた。
- 来館頻度が低かった小学校高学年児童がダーツのために頻繁に遊びにくるようになった。

課題・今後の展開

- ダーツを投げ慣れていないと的から外れたところに向かってしまうことや、ふざけていて矢の先端が他者に当たってしまうことが考えられる。後者は職員が対応することで防げるが、前者は経験を積んでいく必要があるため、随時投げ方について声掛けを行っている。
（例・野球ボールを投げるように矢を投げると力が入りすぎてしまうため、紙飛行機を投げるように投げると伝えている。）
- 学生向けのスポーツダーツの大会があるため、出場に向けてクラブ活動化を検討している。